

会 務 月 報
第482号

発行 一般社団法人 日本建築士事務所協会連合会

■第3回指導運営委員会 議事概要

日 時 令和5年4月25日（火） 13:30～14:40

場 所 日事連会議室

出席者 委員長 矢野敏明

委 員 佐藤友一、奥村一利、辻 裕樹、田中健一、
有馬一郎

担当副会長 原 行雄

事務局 居谷、前田、千浜、安藤、吉田

欠席者 委 員 立道浩幸

<提出資料>

資料1 令和4年度 指導運営に関する事業報告（案）

資料2 令和4年度下半期 苦情の解決業務実施報告書（個別レポート）

資料3 苦情の解決業務の規程モデル等関係資料（修正案）

参考1 苦情解決事例紹介（会誌5月号掲載）

参考2 悪質リフォーム対策リーフレット（住宅リフォーム・紛争
処理支援センター）

<議 事>

1. 令和4年度 指導運営に関する事業報告について

令和4年度の指導運営に関する事業報告案について事務局より説明がなされ、各委員において案の内容を確認し、これを了承した。

（資料1）

2. 令和4年度下半期 苦情の解決業務実施報告書（個別レポート）
について

事務局より、令和4年度下半期の苦情の解決業務実施報告書について説明がなされた。（資料2）

今年度下半期は8件の個別レポートが提出され、協議の結果、8件全て助成の対象とすることとした。

個別レポートの精査・修正を担当する委員を以下の通り割り振り、6月末までに事務局へ返送してもらうこととし、修正後の個別レポートを基に事例集への掲載可否および会誌への掲載候補を選定することとした。会誌に掲載する際には、該当事例を担当した委員に事前の内容確認を依頼する。

[事例] [担当委員]

岩手会・・・佐藤委員

宮城会（2件）・・・奥村委員（001）、立道委員（002）

群馬会・・・辻委員

千葉会（2件）・・・田中委員

神奈川会（2件）・・・有馬委員

3. 苦情の解決業務の規程モデル等関係資料および建築士事務所の
トラブル予防の改訂について

事務局より、苦情の解決業務の規程モデル等関係資料の修正案について説明がなされ、協議した。（資料3）

現在の「建築士事務所業務に対する苦情の解決に係る業務実施規程モデル」第6条では、①苦情対象建物がある単位会、②相談者のいる単位会、③苦情対象事務所のある単位会、のいずれかに該当する単位会に対応することとなっているが、実際には①②③とも同一の単位会であることが多い。苦情対象事務所と相談員が顔見知りなどで、苦情対象事務所の肩を持たれるのではないかと不安に思う相談者がいることから、①②③には該当しない全く別の単位会へ相談できるよう案では④を付け加えた。しかしながら、苦情相談は対応が難しいケースも多々あるため、①②③に該当しない全く別の単位会でも対応できることとした場合、単位会や相談員の負担が大きくなることが考えられる。

また、相談員より相談者への指導・助言の方法（口頭もしくは文書）について問い合わせがあったため、相談業務の実態を知りたい。

○意見等

・①②③に該当しない全く別の単位会に対応することが適切である場合とはどういったケースか。全く別の単位会に対応することが適切であるかどうかの判断基準が必要ではないか。

・案だと全く関係の無い単位会から苦情対象事務所に何の前触れもなく連絡することになるため、これまで通り①②③のいずれかに該当する単位会でまずは受付し、他の単位会へ移管するほうが組織としてはよいのではないかと。

・相談者が全く関係の無い単位会を指定した場合、指定された単位会が対応に困るのではないかと。

・「上記以外で、本会で対応することに正当な理由があるとき」などの表現にしてはどうか。

・相談者への指導・助言は口頭で行い、相談者自身で指導・助言の内容をメモしていることが多い。

・文書で指導・助言するのはリスクが高いのではないかと。

○協議結果

・第6条の追記文については、記載方法を再度検討することとした。

・第7条5項（相談者への指導・助言の方法）は、現状のままとすることとした。

・建築士事務所のトラブル予防の改訂については、引き続き検討することとした。

■次回日程

令和5年11月6日（月）13:30～15:00

■第27回既存住宅状況調査専門委員会 議事概要

日時 令和5年4月27日（木）14:00～15:40

場所 日事連会議室

出席者 委員長 相原清安

委員 大山早嗣、佐藤啓智、須田正美、
渡辺 猛、山口 雄、辻 裕樹

欠席者 委員 橋本健二

事務局 居谷、千浜、野出、岡本、吉田

【配付資料】

第26回 既存住宅状況調査専門委員会議事概要

資料1 令和4年度 講習結果の一覧

資料2-1 令和5年度 新規講習（会場講習）開催予定一覧

資料2-2 令和5年度 更新講習（会場講習）開催予定一覧

資料2-3 令和5年度 オンライン講習 参加単位会

資料3 既存住宅状況調査技術者 Q&A

資料4 会誌掲載記事（3月号、4月号、5月号）、更新対象者へのハガキ

議 事

1) 令和4年度の講習結果について

○資料1により、令和4年度の講習結果について、事務局より説明がなされた。新規講習の受講者数は408人で、全員が合格した。

一方、更新講習の受講者数は184人で、うち2人が修了考査で不合格。また、過去3年間の受講者数についても比較が行われ、増加傾向であったことが報告された。

○議論内容

・三重会が三重県から依頼された、県内の空き家調査及び空き家バンクの充実を目指す目的で行われた空き家調査について報告がなされた。本調査は一軒ずつ空き家を調査し、相談会にも参加することが求められた。本事業に参加するには既存住宅状況調査の資格が必要となったため、急遽新規講習を開催し10名が受講、資格を取得した。資格者は持っている資格で対応した。この空き家調査には、外観目視のみの調査と内部調査を含めた調査があり、委託費に3:7程度の差があるとのこと。

・三重県では上記以外の仕事はほとんどないことが現状であり、仕事がないために受講希望者がいないため、三重会では更新講習を実施しなかった。

2) 令和5年度の講習について

○資料2-1～2-3により、令和5年度の講習予定について説明がなされた。今年度も会場講習及びオンライン講習で実施する。

また、日事連の受講者は増加傾向であるが、他団体も含めた全体の受講希望者は減少傾向にある。

○議論内容

・他団体を含めた既存住宅状況調査技術者講習全体の受講率が減っている原因は、仕事が少ないためだと想像されるが、仕事を増やす動きがあれば受講者も増える可能性があると思われる。

・既存住宅状況調査は問題が起こる前に実施する必要があるが、実態として実施されないのが現状である。

- ・既存住宅状況調査の利用促進の課題の一つとして、不動産担当者が既存住宅状況調査に対して積極的でないことが挙げられる。
- ・省エネルギーフォームに関連する国交省からの補助金の要件として既存住宅状況調査が必要になることがあるが、そういった国からのバックアップがあると、既存住宅状況調査が促進される可能性がある。
 - リフォーム推進協議会が一覧にまとめて紹介している。
 - 自治体等でも補助を実施している。
 - 大阪会と大阪府で年一回実施している意見交換会でも、本議題を取り上げようと思う。
 - 事務局にて次回委員会までに補助事業を実施している自治体のホームページに加え、リフォーム推進協議会や国が実施している事業なども含めた一覧のリストを作成する。
- ・現状、空き家バンクには既存住宅状況調査が必要ないため、消費者は安心して購入できる情報をあらかじめ入手できない。そのため、空き家バンク制度に対して、既存住宅状況調査が必須となる仕組みが必要ではないか。各自治体で補助制度を出して既存住宅状況調査を行っている場合があるため、空き家バンク登録と補助制度の両方から見て、より効果的な取り組みができる可能性があるのではないか。

3) その他

- 資料3により、既存住宅状況調査技術者Q&A(案)について、事務局より説明がなされ、協議がなされた。事務局はQ2-24のQを「劣化事象等の有無、及び道路等から確認した旨を備考欄に記載することが望ましいと考えられます。」などに修正し、委員へ展開。委員は5月12日(金)を目途に全体を確認し、意見があれば事務局へフィードバックを行う。
- 資料4により、既存住宅状況調査技術者講習の広報・周知方法について、ハガキの送付及び会誌への掲載を行った旨、報告がなされた。今後WEB申込の整備が完了次第、メールでも広報予定。
- 告示改定内容が含まれたテキスト及びDVDの作成状況について報告がなされた。告示改正によりスケジュールは後ろ倒しになったものの、現在は順調に作成が進んでいる。テキストは完成次第、委員へ提供予定。

○その他

- ・令和5年10月1日より、有資格者によるアスベストの事前調査が義務化される予定であるが、2005年までの外部塗装材にもアスベストが含まれているものが多く、処分に200万円から250万円かかることがあるため、解体する際に費用がかかり、空き家が増える懸念がある。
 - 解体だけでなく、100万円を超えるリフォームで調査が必要となる。
 - アスベスト調査を既存住宅状況調査のオプション調査等で付加することはできないか。
 - アスベスト調査が厚労省の所管であることなどの建付けが異なる制度であるため、難しいと思われる。
- ・千葉会で、一般建築物の石綿含有調査者講習会が5月16日と17日に開催する。
- ・三重会では既存住宅状況調査と適合証明の調査項目が重複していることから、会員向けサービスとしてそれらを統合した扱いやすいソフトの作成を検討している。既存住宅状況調査については3～4年前から取り組んでいるが、テキストの改訂に併せて改修が必要。

○次回開催日程

令和5年9月26日(火) 14:00～16:00

■第4回会誌編集専門委員会 議事概要

日 時 令和5年4月7日(金) 14:00～16:00

場 所 日事連会議室

出席者 委員長 荻窪伸彦

副委員長 宇塚幸生

委 員 田端友康、小泉 厚、齊藤滋史、福山雅也

オブザーバー (株)ジェイクリエイト 城市奈那、江島千鶴

事務局 前田、三浦、鈴木、井上

欠席者 委 員 鈴鹿美穂、広報・渉外委員長 石井繁紀

<配布資料>

資料1-1: 令和5年5月号台割

資料1-2: 5月号 表紙候補写真の説明

資料1-3：表紙候補写真4枚

資料2：令和5年6月号台割

資料3：令和5年7月号台割

資料4：古都で創る-事例素案 鎌倉・法隆寺(宇塚副委員長提出)

資料5：令和5年度 全国大会(鳥取・島根大会)の特集掲載号について

資料6：夏・秋の特集案(宇塚副委員長提出)

参考1：令和4年度 年間台割表

参考2：令和5年度 年間台割表

議 事

1. 直近の会誌(3月号・4月号)の掲載内容についての意見交換

会誌の掲載内容について、各委員より感想等を述べた。

<3月号>

・特集「2025年大阪・関西万博に向けて-海と空がつながる万博」は、万博の期待が高まる内容でとてもよい特集であった。来年3月号も特集する予告の文面があればよかった。

注目されている8名のテーマ事業プロデューサーによるテーマパビリオンについて、それぞれ何を担当されていたか等がわかるよう一覧にしたものがあってもよかった。

表紙のパースの作成時期を示した方がよかった。

・「美術館・博物館巡り」の足立美術館は、鳥取・島根の全国大会に向けて時宜を得ていると思った。

・「続BIMで変わる、BIMで変える」が掲載されており、静岡会でもBIMの取り組みについて話し合っているところである。ZEBでも多くの事例を取り上げ掲載してもらいたい。

・「建築士事務所が知っておきたい法律知識」では、境界線のことを書かれた記事で参考になった。

・建築まちづくりNEWSの共同住宅の子供の転落事故に関する内容は、つい最近起きた事故に類するものであり、時宜を得たものとなった。

・編集後記は、万博に向けて「こんにちは」の曲のことが書かれていてよかった。

<4月号>

・特集は、「湯の新たな景色」で、表紙の写真と扉がとても引きつけるものがありよかった。

山代温泉総湯や有馬きらり・有馬温泉太閤の湯で木質ブレースのことが書かれておりよかった。見応えのある特集になったと思う。

なお、年表が左から右に見にくい形で見づらかったことと、前段で前文があつてその後に事例紹介、年表があつたほうがよかったかもしれないと感じた。

年表にある源ヶ橋温泉(大阪市)は、閉鎖されているので、現在閉鎖の表示があればよかった。

温泉自体の写真がないものがあるので、1枚載せてもよかった。

・新連載の「単位会からの風」は単位会の情報がわかりとてもよい内容であった。日本地図が各々描かれているが、例えば中央に1つだけにして該当県に番号を付ける方法もあると思った。

・青年話創会2022レポートは、前号共に単位会の青年部会のことがよく書かれ、参考になる記事であった。

令和4年9月に行われた青年話創会2022熊本大会で報告された内容であるという注釈を今後入れることとする。

・「建築士事務所が知っておきたい法律知識」は、日照権侵害に関する難しい事例であったが、しっかりと説明が書かれた記事であった。

・3月号と4月号に書かれている建築まちづくりNEWSで、住宅金融支援機構のフラット35と工事請負契約約款の改正の記事は、まちづくりNEWSとは少し異なり、違うタイトルを考えた方がよいように感じた。

2. 5月号の編集状況の報告

ジェイクリエイトおよび事務局より、5月号の編集状況について台割に基づき説明がなされた。(資料1-1)

◇特集は「都市木造の可能性」と題して、近年の都市木造の動向と今後の展望を東京大学教授・腰原幹雄氏の執筆により掲載する。そのほか、事例紹介としてPortPlus、KITOKIおよび睦モクヨンビルを掲載する。

・立命館アジア太平洋大学が木造3階建てで新しい校舎を新築

しているので、トピックス等で触れられれば入れることにする。

- ・都市木造をタイトルにする場合は、注釈で定義を入れておくこととする。
- ・表紙についてジェイクリエイトより4枚の候補写真が挙げられ、1番・正面のPortPlus/大林組
横浜研修所の写真を選定した。(資料1-2・1-3)

◇その他の主な記事等

- ・隔月連載「続BIMで変わる、BIMで変える」は、石井広報・渉外委員長が執筆し掲載する。
- ・「単位会からの風」は群馬会、千葉会、神奈川会、熊本会の4単位会の情報を掲載する。
- ・単位会だよりは、近畿ブロック協議会の青年部会の設立について掲載する。
- ・日事連発信では、既存住宅状況調査技術者講習の開催日程、ほか全国大会(鳥取・島根大会)の概要を掲載する。
- ・編集後記は鈴鹿委員が担当し執筆している。
- ・表4(裏表紙)は総合資格の広告を掲載してきたが、今年度より隔月で掲載することになり、偶数月号を総合資格の広告、奇数月号は日事連の情報等を掲載する。5月号は既存住宅状況調査技術者講習のチラシを掲載する。

3. 令和5年6月号以降の特集企画等の確認、検討

ジェイクリエイトおよび事務局より6月号・7月号について台割案に基づき説明がなされた。

○6月号(資料2)

◇特集1として、「光の装飾ーガラス(仮)」を掲載する。

- ・企画として、日本の近代建築とガラス技術の発展について、執筆候補として北翔大学名誉教授に依頼する。
- ・スタンドグラスの2人のパイオニアによる代表的作品の紹介、板ガラスの変遷についても触れる。

◇特集2は、10月13日に行われる第45回建築士事務所全国大会(鳥取・島根大会)の概要と鳥取・島根の見どころを全国大会用の新企画として、6月号から9月号まで4回に亘り掲載する。

◇その他の主な記事

・「日事連建築賞受賞作品紹介」は、優秀賞の退会者は掲載しないこととし、ほかに1社受賞しているがすぐに執筆できない状況にあるので、5月号の作品紹介で最後になる可能性がある。

・「単位会からの風」については、掲載する単位会の年間掲載予定スケジュールを立てて依頼していくこととした。地域の偏りが無いよう基本的には各ブロックより1単位会ずつ(4単位会)掲載する。

・「美術館・博物館巡り」は、上野の東京国立博物館を、鈴鹿委員を通じて東京会会員より執筆し掲載する。

・編集後記は、田端委員が担当する。

○7月号(資料3)

◇特集は「古都で創るー歴史都市における現代建築」を掲載する。

・「世界および日本の古都における新旧建築の共存」として、立命館大学教授・青柳憲昌氏に執筆依頼し、海外の古都の事例等を紹介する。

・そのほか、古都保存法で指定されている京都市、奈良市、鎌倉市等で新しい建築をどのような形で建てているか等を紹介する。執筆者の候補として、國學院大学教授・西村幸夫氏または景観・まちづくり専門委員会委員を考えている。

・宇塚副委員長より、自社で1960年に免震工事の設計を手掛けた鎌倉大仏高徳院および自社で設計した奈良斑鳩の法隆寺収蔵庫について事例素案を基に説明がなされ、前者の高徳院はコラムとして1頁掲載を予定することとした。後者の法隆寺収蔵庫は、執筆候補の青柳氏の企画と重なるのでジェイクリエイト社へ関係資料を送付したことを報告した。(資料4)

◇その他の主な記事

・「美術館・博物館巡り」は、西側の単位会へ依頼したところ、徳島会、大分会および沖縄会より執筆の承諾を得たため、順次掲載する。

・青年話創会2022レポートは、石川会、福井会、愛知会および京都を予定している。

・編集後記は、鈴鹿委員が担当する。

4. 特集等の提案についての検討

○以前、委員より提案された特集案「祭り」の建築術と「洋風庭園」について、宇塚副委員長より内容をふくらませイメージした資料が提出され説明がなされた。（資料6）

- ・祭りについては付随する建築や施設等、洋風庭園は日比谷公園、箱根強羅公園、ホテル甲子園等を集めて紹介することとしたい。
- ・8月号に時期に合った「祭り」の建築術、11月号に洋風庭園の特集を予定することとした。
- ・その他、以前ZEBの特集提案があり、省エネルギー全般の紹介とあわせて9月号に掲載を予定することとした。

○全国大会（鳥取・島根大会）の特集掲載号について、今年は10月12日に青年話創会、13日に式典等が行われ、従前より少し遅い時期に開催される。従来通り12月号に掲載するとすると編集作業が時間的にタイトになることが予想されるため、1月号に移行する提案がなされ、了承した。

また、従来1月号は青年部会等若い年代の会員の投稿による「今年の抱負」を掲載しているが、検討の結果、分量を考慮し1月号と2月号に分けて掲載することとした。

○事務局より以下の報告がなされ、協議した。

日事連の賛助会員の年会費は、6社すべてが1口15万円にとどまっているが、BIMのソフトを扱っている会社に口数の増を持ちかけたところ、福井コンピュータアーキテクトが、年1回無償で会誌に広告を掲載してもらえらるなら、2口にしてもよいとの回答があり、受け入れたいがいかがか。

検討の結果、財政面を考慮し受け入れることとした。

8月号でマロニエBIMコンペ（大阪）の募集案内を掲載するので、それに合わせて広告を掲載してはどうかと提案がなされ、調整することとした。

次回開催予定

令和5年6月7日（水）14:00～16:00

■第3回青年部会連絡会議 議事概要

日時 令和5年2月7日（火）10:00～11:35

場所 日事連会議室

出席者 主査 本澤 崇

副主査 東山 圭

委員 宮崎 勲、出村洋一、奥村健太、村田正道、岸本章宏、山室昌敬

担当副会長 上野浩也

事務局 前田、伊東、三浦、松谷

議事に先立ち、上野担当副会長より、以下の趣旨の挨拶があった。

私が属する近畿ブロックでもようやく青年組織のスタートを迎えることができ、大変喜んでいる。皆さんにもある程度期待していただきながら、良いアドバイスをお願いしたいと思っている。設立総会には是非ご出席いただきたい。

議 事

(1) 2月18日開催の近畿ブロック青年部会設立記念式典について

本澤主査より、資料1によって近畿ブロック協議会青年部会設立記念式典におけるパネルディスカッションの進行について説明がなされ、本連絡会議の各委員より、所属ブロックの青年部会等に対する現状等を紹介する時間が設けられているので、各々の発言趣旨についてご意見を伺いたいとの発言があった。

各委員等の意見等は次のとおり。

- ・我々はブロックでの青年部会の運営等に関するアドバイスを行う立場ではなく、青年部会連絡会議における現状の報告という流れになるかと思われる。
- ・日事連が目指す事務所協会の活性化については日事連会長が説明すべきであり、我々は本連絡会議が目指すことや活動内容を紹介するのが適当であると考え。
- ・鳥取会および島根会には青年部会が設置されていないため、今年の青年話創会は、中四国ブロックの単位会が協力し実施する。まだ具体的な打合せは行われていないが、明日、鳥取会および島根会の関係者と顔合わせをするので、その報告ができればと思う。
- ・九州・沖縄ブロックに青年部会ができた経緯と熊本大会

までの活動について報告したいが、近畿ブロックの方針として活動範囲を広げ、何か共同でやっていこうという話があるので、ブロックの現在の活動状況やこれからのビジョンについては岸本委員に発表してもらったらどうか。

- ・これまで集まって報告ということしかやっていないので、今後の活動計画においてどう広げていくかが課題である。年1回集まるだけでなく、交流の機会を増やす方向で活動を計画していきたいことを伝えたい。
- ・他の単位会を巻き込みながら、みんなで同じ方向を向いてやっていけるような、何か活動を計画していくという、その辺のプロセス等について話しができれば思っている。
- ・これまでに育んできた今の世代のまとまりを、次の世代にどう伝えていくかが重要である

(2) 中長期テーマ実現に向けてのロードマップ更新について

本澤主査より、資料2によって中長期テーマ実現に向けてのロードマップ更新について概要説明がなされ、近畿ブロック協議会青年部会設立記念式典に向けて、ロードマップ等の最新情報のとりまとめを求められているとの発言があった。

各委員の意見は次のとおり

- ・組織化が会員増強に繋がるとしても、会員外の青年世代を巻き込むことは永遠のテーマであり、根幹である。
- ・仲間の輪を広げていくことが重要である。
- ・新陳代謝と持続・続行のバランスが求められる。
- ・目標は目標として、常に掲げておいてよいのではないかと。
- ・岐阜会は日事連に再入会したこともあり、岐阜会青年部との交流は敢えて記載する必要がなくなったため削除する。
- ・我々の活動には、常に先があり、立ち止まることはできない。次のロードマップへと続いていかなければならない。

協議の結果、近畿ブロック協議会青年部会発足式典が開

催される2月18日前までに、ロードマップの見直しに対する意見等を各委員より提出することとした。

最後に、上野担当副会長より以下のとおり発言があった。

九州・沖縄ブロックと近畿ブロックに挟まれた中四国ブロックのために、両方で何とか力になりたい、助けたいという思いを感じた。今後この連絡会議が地域の青年活動にどのように関与していくのかは喫緊の課題となるであろうし、どのようにコラボレーションしていくかというようなことも検討しながら、近未来的な方向性を見出してほしい、進化してほしいと思う。

(配付資料)

第2回議事概要

資料1 近畿ブロック協議会青年部会設立記念式典パネルディスカッション進行台本

資料2 中長期テーマ実現に向けてのロードマップ

■主な行事予定

令和5年

5月	17日	BIM GATE編集委員会
	24日	総務・財務委員会
	26日	監査会
	30日	BIMと情報環境WG
	31日	正副会長会 常任理事会
6月	6日	業務開発専門委員会
	7日	会誌編集専門委員会
	8日	適合証明登録制度運営委員会
	9日	日事政研役員会 通常理事会
	12日	会員サービス検討WG

令和5年4月末 会員・構成員異動報告等

1. 期間 令和5年4月1日～4月30日
 2. 会員在籍 正会員 47団体 構成員 14,344事務所
 賛助会員 6社

単位会	構成員		建築士事務所登録		賠償責任保険		
	増 減	在籍数(A)	登録数(B)	加入率(A/B)	増 減	加入数(C)	加入率(C/A)
北海道		984	4,216	23.3%		297	30.2%
青森	+ 1	163	902	18.1%	+ 1	44	27.0%
岩手		273	921	29.6%		75	27.5%
宮城	+ 4	330	1,865	17.7%	+ 1	87	26.4%
秋田		141	1,016	13.9%	+ 1	50	35.5%
山形		207	1,084	19.1%	△ 1	58	28.0%
福島	△ 1	235	1,467	16.0%		69	29.4%
茨城		429	1,875	22.9%		153	35.7%
栃木	+ 8	162	1,293	12.5%		80	49.4%
群馬	△ 1	185	1,649	11.2%	+ 1	90	48.6%
埼玉	△ 3	438	4,538	9.7%	+ 1	140	32.0%
千葉		338	3,276	10.3%	+ 1	114	33.7%
東京	+ 12	1,609	14,649	11.0%	+ 3	619	38.5%
神奈川	+ 7	745	5,834	12.8%	+ 4	242	32.5%
新潟	+ 4	305	2,182	14.0%	+ 1	139	45.6%
長野		383	2,027	18.9%	+ 1	108	28.2%
山梨	+ 1	104	799	13.0%		15	14.4%
富山		295	1,127	26.2%		67	22.7%
石川	+ 1	310	1,245	24.9%		65	21.0%
福井		202	938	21.5%		55	27.2%
岐阜	+ 1	116	1,512	7.7%	+ 1	37	31.9%
静岡	+ 1	381	3,002	12.7%		128	33.6%
愛知		500	4,953	10.1%		138	27.6%
三重	+ 1	182	1,174	15.5%		65	35.7%
滋賀		185	1,096	16.9%		41	22.2%
京都	△ 2	369	2,163	17.1%	+ 2	111	30.1%
大阪		803	6,291	12.8%	+ 2	245	30.5%
兵庫	+ 4	352	3,511	10.0%	+ 1	101	28.7%
奈良		102	880	11.6%		26	25.5%
和歌山	△ 1	110	714	15.4%		23	20.9%
鳥取		118	477	24.7%		55	46.6%
島根	+ 2	113	606	18.6%	+ 1	53	46.9%
岡山		364	1,413	25.8%		72	19.8%
広島		343	2,244	15.3%		151	44.0%
山口		103	990	10.4%		39	37.9%
徳島		112	810	13.8%	+ 1	20	17.9%
香川	+ 1	86	1,011	8.5%		20	23.3%
愛媛	+ 2	192	1,167	16.5%	+ 1	48	25.0%
高知		137	639	21.4%		37	27.0%
福岡		469	3,341	14.0%		181	38.6%
佐賀		179	586	30.5%	+ 1	49	27.4%
長崎		236	738	32.0%		45	19.1%
熊本		228	1,388	16.4%		99	43.4%
大分		148	829	17.9%	+ 1	48	32.4%
宮崎		112	1,037	10.8%		47	42.0%
鹿児島		282	1,146	24.6%		87	30.9%
沖縄	+ 3	184	1,300	14.2%		69	37.5%
計	+ 45	14,344	97,921	14.6%	+ 25	4,602	32.1%

※建築士事務所登録数(B)は令和4年4月1日時点の数字である。